



広島城北高等学校サッカー部OB会
広島市東区戸坂城山町1-3 広島城北学園内 〒732-0015
電話 082-229-0111 FAX 082-220-2366



大学生生活で得たこと

37回生 海野 翔太

先日、宮本先生から会報誌に載せる文章の依頼の電話をいただき、書かせてもらうことになりました。突然のことでは何を書くか迷ったのですが、大学でのこと、またそこから学んだことを書かせてもらいたいと思います。僕は今、大学でフットサルサークルに所属しています。そこで去年一年間、キャプテンをしていました。練習、試合の進行はもちろん、イベントの幹事やサークルの運営に至るまで全ての仕事をしました。うまくいかない時もあり悩んだ時期もあったのですが、サークルの仲間たちに助けってもらったりしてやり遂げることができ、素晴らしい一年を過ごせたと思っています。

城北サッカー部に育てられて

40回生 聖川 裕太

私は高校から城北にお世話になった新生です。入学当初は新入部員も多く、自分がどこまで通用するかと不安もありました。しかし城北に入学できて良かった、サッカー部に入学して本当に良かったと思えたのは広瀬研一朗主将率いるチームと沼田高校との試合をベンチで観たことでした。試合には惜敗しましたが、先輩達の戦いぶりに感動し自分も少しでも追いつける様精進しようと思えました。

2年生の時新人戦では県ベスト8、総体では県ベスト16、選手権でも県ベスト16とこれまでに味わったことのない貴重な体験をすることができました。中でも選手権では高さん、篠原さん、松本さんの三人に残っていた。二次リーグに進み、宮本先生や岩井コーチをはじめスタッフの方にいつもよりあつくピッチに送り出され、保護者の方にはスタンドで応援していただき、後輩たちで構成された応援団からはどこにも負けない応援を受け、これ以上ないくらい素晴らしいときを

ですが、「サークル全体を自分が背負っているんだ」という意識があり、どんな些細なことでも真剣に考え、取り組むようになったのです。そうすることで、サークルの仲間たちから「ありがとう」と感謝され、大きな充実感がありました。同時に「責任」から逃げればかりいた自分が恥ずかしくなりました。僕は今年の秋から就職活動が始まります。社会に出るにあたって、思うことは「責任」がない人なんてどこにもいないということだと思います。今の僕にとっての社会はサークルです。その中で自分が何に貢献できるか考え、行動に移すことよって初めて社会の一員として周りから認められるのではないかと考えます。今は僕にとっての社会はサークルという小さな単位ですが、就職すると会社という大きな単位に変わってきます。媒体が大きくなるほど、一人一人の貢献というのはいえにくくなります。だからといって「責任」がないわけでは無いと思います。繰り返しになりますが、「一人一人が自分の「責任」を意識し、どんな小さなことでも自分が所属する社会に貢献することで、メンバーとして認めてもらえる」と思います。逆に言うと、何もしない

過ごせたことを一生誇りにしていきたいと思っています。折に触れ先輩方には助けられ、励まされ、導いてもらい心から感謝しています。すばらしい人間関係をつくれたことこそ自分の最高の宝だと思っています。自分達が最高学年となつて後輩達を引っ張っていく立場になり悩んだり、苦しいことも経験しました。何とか続けることができたのは、心技体とも最高の選手である主将の浅海をはじめとし、最後まで頑張った同僚の仲間がいたからです。自分達の最後の公式戦は本意な成績に終わり、先輩方が自分たちに経験させてくれたような貴重なものを後輩たちに経験させてあげることができなかったことが唯一の心残りではありましたが、秋まで引退を延ばし新チームの為、不完全燃焼で終わった自分達の為頑張ってくれた浅海、梅田、宗近には本当に感謝しています。自分は今教師になるという夢に向って勉強しています。サッカー部の顧問になって子ども達にサッカーを教えたい！それが第一の目標なのですが、このような目標を持ってたのも中学、高校と自分を愛情を持ち育てて下さった素晴らしい指導者の方々とめぐり会え

で他人任せにしている人はメンバーとして周りの人から認知してもらえないのではないのでしょうか。僕は高校時代、不真面目な部員で先生や他の仲間たちに迷惑をかけていました。だからこの文章の依頼を受けたとき、僕じゃなくても...という思いはありましたが、文章を書くことを通して城北サッカー部OBとして少しですが貢献ができたのではないかなと思います。この度、文章を書く機会を与えてくださった宮本先生にお礼をしたいと思います。ありがとうございます。

ホームページも大好評!

http://saijodan.picot.ne.jp

是非ご覧ください



自分は今同級生の市川と同じサークルに所属してサッカーを楽しんでいます。プレーヤーとして第一線に立つことはもうないと思いますが色々な方面からサッカーに関わり指導者としての道を進みたいと思います。これからの挫折しそうな時期、色々な壁につきあたることがあると思いますが、そんな時に最上段グラウンドと仲間達が自分の励みになると思います。先輩達にはこれからもご指導をおねがいします！と、そして後輩達には最上段でまた会おう！城北サッカーをますます盛り立ててくれ！と、そして同級生達には今の自分があるのは皆のおかげだ！と、そしてこれから離れていてもいつも心に皆がいると伝えたいです。また一緒に最上段でボールを追いかけようなと!!!

月日の早さを感じて

37回生 鈴木 真

六月の三週間、教育実習生として城北に帰ってきました。真新しい校舎に驚かされましたが、最上段グラウンドは私が毎日ボールを蹴っていたところと変わらないままで、嬉しさと懐かしさと、それから自分がこの場所を離れてからもう四年になる、という月日の早さを感じました。

私が練習に参加させてもらったのは、県総体の国泰寺戦の前から三年生が引退し新チームになるまでの数日間でしたが、どの選手も熱心で素直で、何よりいい顔をしているなあと感じました。国泰寺には惜しくも敗れてしまいました。「県ベスト8」という目標を掲げるに値する素晴らしいチームだったように思います。自分が選手だった時は「県大会出場」が何より現実的な目標だったチーム「城北」が、今や「県大会に出て、出てからが勝負」を目標にするチームになり、一ファンとしては頼もしい限りです。城北にとつての総体が終わり、今現在(六月半ば)は新チームへの移行の真っ最中ですが、「二年生は「新しいチーム」をイメージし、話し合い、行動しています。ある三年生が「オレらはもう引退したんじゃけえ、一、二年生で好きなようにやればいい」と言っていたのですが、彼らもいい時間を過ごしたのだなあと思います。サッカー部に関わる人間が、それぞれの立場でサッカー部のことを考え、行動するという城北の良き伝統が受け継がれていて、その中に自分も加わっているということを感じています。最後にになりましたが、城北サッカー部がますますの活躍とサッカー部に関わる全ての皆様方の御健勝をお祈りして、結びとさせていただきます。ありがとうございます。



〈近状報告〉 福祉施設の非常勤職員などをしながら大学に通っています。来年から再来年には、広島で教員をやりたいと考えています。

拝啓

若葉の鮮やかな季節を迎えました。サッカー部OB会の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。ついでに広島城北サッカー部に対して熱い応援ありたいと思っています。

さて、このたびの突然の校長就任に際しましては、早々にお心のおもひお言葉や過分なるお祝いをいただきまして誠にありがとうございます。いささかの不安を抱きながらも、やがて新しい胸中でございます。そして改めてその責任の重さに身が引ま締まる思いがいたします。

また、お心に掛けていただく皆様方の存在が、はげしく心強く、そしてこれほどありがたいことか、今(ついで)と感じています。

広島城北学園に教員の教員として就職以来、たくさんの方との出会いを通して、サッカー部に携わりその伝統のますますの深さが、私の教員としての人生を豊かにしてくれていまして、確信しております。

今後とも今までも増してたくさんのお力添えをくださいますようお願い申し上げます。

また、広島城北学園サッカー部OB会の一層の発展を祈念いたします。

敬具

平成十七年五月十八日

広島城北学園サッカー部OB会の皆様

田辺 範和

近況報告

HP等で皆さんご存じのことと思いますが、広島城北高校サッカー部は昨年の高校選手権大会において、強豪の銀河学院に競り勝ち、二年連続で二次リーグに進出しました。リーグ戦は昨年同様1勝2敗でしたが、得失点差により昨年のグループ4位を上回る、3位という結果を得ました。宮本監督の言葉を借りれば、「昨年より1前進したスタートライン」から、今年の取り組みが始まりました。

広島地区新人戦

新チームとして臨んだ最初の大会だったが、4試合を通じてやや硬さが目立った。第3節の安古市戦は、どちらに転んでもおかしくないゲーム内容ではあったが勝利し、最終節の美鈴が丘戦は、敗れはしたもののグループ1位となり、県新人戦に進出した。チーム全体で、キックの精度を上げていくことを最優先課題とすることを確認した。

広島県新人戦

初戦の瀬戸内戦は押し込まれる展開多かったが無失点に抑え、PK戦では敗れたものの手ごたえを感じた。しかしながら、次節の尾道北戦では残りわずかの時間帯で同点に追いつかれ、勝ち点を稼げなかった。最終節の福山暁陽戦は先制しながら後半に逆転され、春季県リーグの出場権獲得はならず、高校総体は地区予選からの出発となった。

広島県高校総体 広島地区予選

第1節、新庄戦は引き分け発進となったが、続く2試合をそれぞれ粘り強く1点差で勝利し、昨年果たせなかった県大会出場権を獲得した。リーグ戦を勝ち抜いていくタフさを、チームが少しずつ身に付けていったように感じる。

広島県高校総体

強敵・国泰寺に対し、選手スタッフとも並々ならぬ決意で臨んだ。先取点を奪うことに成功したが、前半終了間際に追いつかれ、後半はやや地力の差が出た感もあり、残念な結果に終わってしまった。

ここ数年、広島城北高校サッカー部は各大会においてある程度の安定した結果を残し、一定の評価は得ていると感じます。しかしながら、ベスト8が1回、その他はほとんどがベスト16という事実から考えると、勝ち進んだのは強豪校との対戦が遅かったからであり、今回のように一回戦で当たってしまうと勝てない、ととられても仕方ないかもしれません。

もちろん公式戦が増えたおかげで真剣勝負の場が増え、チーム、選手は確実にレベルアップしています。ただ、それは他のチームにもいえることであり、ベスト8もしくは4、さらにその上を目指すには今のままの取り組みでは望めないという事実は十分に認識しています。

スタッフミーティングを重ね、各大会毎にPDCAの作業を選手とともにに行い、課題の確認と改善は高いレベルで進めています。また、我々の取り組みを多くの方に知ってもらうため、広島城北以外の中学校3年生と保護者の方を対象とした説明会(プレゼンテーション)や練習会も開催しています。

また、今年からあすなろリーグという、セカンドチームを中心とした大会に登録し、出場します。選手達のモチベーションも高まり、非常に楽しみにしています。

限られた時間の中、やり残したことがないように、選手、スタッフともより一層努力していきます。「SAIJODAN」で思いっきりサッカーに取り組んでいる広島城北高校サッカー部に、応援よろしくをお願いします。

広島城北高校サッカー部 コーチ 岩井 竜彦

OB会長 19回生 吉川 英司

「起きよ〜!!」「朝〜!!」時刻、朝6時30分。最悪に、しんどい合宿の朝。場所は、芸北町噂の「銀嶺ロッジ」。声の主は、現広島城北学園学校長「田辺先生」。思い起こせば、かれこれ、22、23年前!!宮本監督率いる、当時「県大会」常連校である我々の、ありがちな夏合宿の朝のひとコマであった。当時の合宿というと、その後、「銀嶺スキー場」のゲレンデを走り(起きるや否や)、その後食べたくない朝食。(宮本監督は朝からよく食べていた)しかも、練習グラウンドまで片道約5キロのランニング。(よく考えて下さい。練習は午前・午後の為、必然的に20キロランニング)とまあ、今考えると「...」。しかし、今思えば、それはそれなりに苦しくも楽しい思い出となっており未だに忘れられない合宿事件が多々思い出されます。(↑井上先生・武田プレスリー先生の名曲等...) 多分、「サッカー部」出身のみんなもそれぞれ思いは違うでしょうがそれなりに「合宿」の思い出があると思います。その思い出もそうですが、時間

QPONのひとり言

ホームページ効果もあってか最近の試合には多くのOBが応援に来てくれます。広島在住の方だけでなく、東京・大阪...から広島市内の試合だけでなく、三次・吉田・東広島・福山までそして、本当にありがたいご意見・アドバイスもいただいています。

広島城北サッカー部は、我々スタッフ・選手だけで戦っているのではなく、OB・保護者すべての人々で戦い・楽しみたいと考えています。みなさん“我々のクラブ”に、どんどん関わって下さい。

そして、目標の広島チャンピオンになったとき、こんな会話をしましょう。

『先生おめでとうございます』『ありがとう』ではなく、『やりましたね』『やったな』

広島城北高校サッカー部監督 宮本 誠(19回生)

携帯電話 090-2296-5967 E-mail qpon@do.enjoy.ne.jp fantasta-qpon@docomo.ne.jp